

耕平さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

kouhei@oh-kouhei.org



皆さん、こんにちは。夏本番です。くれぐれもご自愛ください。

さて、財務省が、今年三月末時点の「国の借金残高」を発表しました。八百二十七兆円です。過去一年間で四十六兆円増えました。増加分の大分、四十四兆円は国債です。子どもを含めた国民一人当たりの借金は六百四十八万円。すぐには返せませんね。

国の借金に関連して、もうひとつ別の数字もよく聞きます。これも財務省が発表する。「国及び地方の長期債務残高」という数字。今年三月末は七百七十兆円。すごいですね。

また、国や地方自治体が所管する公社、公団、公益法人の借金を合わせると、公的債務全体の額は既に千五百兆円を超えているという指摘もあります。気が遠くなります。

そもそも国や地方自治体は何のために税金や国債によってお金を集めるのでしょうか。それは国民の生命と財産の安全を守るため。特に医療は優

先度の高い分野と言えます。

ところが、先日、血液製剤による薬害C型肝炎集団訴訟で、一九八七年以降に薬を投与されて被害を受けた患者さんにだけ補償金を払うという判決が出ました。政府は「責任期間が限定されないと医療費が際限なく増えることを恐れている」そうです。裁判所もその点に配慮したのでしようか。財政と国民を天秤にかけている今の日本の姿はどうか変です。

そんな時、ふと思いついた。「建設国債」という言葉。「建設国債」は社会資本を建設する財源として発行を認められている国債です。戦後の復興期にはたいへん役に立ちましたが、「将来への投資」という名目でムダな事業を推進することになり、財政難の原因となりました。

新しい国債

この考え方を「医療国債」として活用できないでしょうか。薬害や医療行為に伴う「医

原病」に関する医療費を賄うために限定した国債です。「医療国債」で薬害や医原病の医療費を賄わなければ、結局その家族が負担を被ります。つまり、将来世代の負担です。

また、この仕組みは「年金国債」という発想にもつながります。「年金国債」は年金財源を賄う国債。「建設国債」は役目が終わりましたが、「年金国債」はこれからの時代にとって真剣に考える必要のある仕組みです。

「医療国債」や「年金国債」は非現実的と思われるかもしれませんが、国全体の借金が千五百兆円に及ぶ現実には既に非現実的。この状態を「一新」することが必要です。

小沢さんの主張する「日本一新」はそういうことかもしれない。財務大臣は次期総理候補のひとり、谷垣さん。ソロバン勘定ばかりしていないで、この際、財政も国民の気持ちも「一新」するような政策を期待したいものです。

覚王山ぞぞこナ

(タイトル文字は書家・山内美風さん<TEL:782-1356>の作品)

—— 覚王山近辺の名店を続々紹介します! ——
<今回は、「アウトレットショップ mist clothes アトリエ風茜」さんです>

日泰寺参道入口の覚王山交差点から 50 メートルほど西にある**覚王山フラザビル**の地下一階に、洋服とお仕立てのお店「**アウトレットショップ mist clothes (ミストクローズ) アトリエ風茜**」さんがあります。

ビルの階段を下ると左側に「**選りすぐった良い品を手頃な値段で**」の看板。まず目に入るのは、とても個性的な色とりどりの洋服やバッグの数々。オーナーが**独自のルート**で仕入れた、**ここにしかない一点物**がずらっと並んでおります。

加藤洋子店長は洋服のお直しやアクセサリー制作も手掛けています。お客さんのデザインをもとに作っていただくこともできます。

また、子供服も充実しております。「**皆さんで楽しんでいただければ**」と加藤店長。お子さんやお孫さんを連れて、覗いてみてはいかがでしょうか。

アウトレットショップ

Mist clothes アトリエ風茜 : 763-7550 (日曜定休)

